

# 令和5年度 全国学力・学習状況調査について

羽島郡二町教育委員会

## 1 はじめに

全国学力・学習状況調査は、平成19年度から実施されています（令和2年度は中止）。本年度も、小学校6年生、中学校3年生及び学校を対象として、4月18日（火）に実施しました。（ただし、中学校における英語「話すこと」調査は定められた期間内の別日に実施）その結果についての報告と保護者の皆様にご協力をお願いしたいことをまとめました。

調査は「教科に関する調査」、「児童生徒を対象とした児童生徒質問紙調査」、「学校を対象とした学校質問紙調査」の3種類の調査が行われました。

## 2 調査内容

### (1)教科に関する調査

小学校6年生は5年生までの学習内容、中学校3年生は2年生までの学習内容から出題されました。

#### □実施された科目と内容

国語、算数・数学、英語（中学校のみ）

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能 等
- ②知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践評価・改善する力 等

#### ※問題数

小学校国語：14問

小学校算数：16問

中学校国語：15問

中学校数学：15問

中学校英語（「話すこと」以外）：17問

中学校英語（「話すこと」）：5問

### (2)児童生徒を対象とした児童生徒質問紙調査

◇学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

（例）読書時間、家庭学習の状況、授業内容の理解度、生活習慣 など

### (3)学校を対象とした学校質問紙調査

◇指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

（例）授業の改善に関する取組、指導方法の工夫、学校運営に関する取組、家庭・地域との連携の状況 など

### 3 調査結果より

#### (1)国語、算数・数学、英語（中学校のみ）

- ・全国平均の正答率を基準に見ると、中学校の数学において、羽島郡の正答率は令和4年度より上昇している。（※英語については令和4年度は調査未実施のため比較対象なし）
  - ・全国平均の正答率を基準に見ると、中学校の数学において、「記述式問題」での正答率に上昇が見られ、論理的な思考力が高まりつつある。
  - ・国語では、小学校の思考力、判断力、表現力等のうち「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」において全国平均の正答率にほぼ等しく、これらの力がバランスよく身に付いている。また、全国平均の正答率を基準に見ると、中学校では特に「話すこと・聞くこと」「読むこと」において優れている。加えて、記述式の問題の正答率が全国平均より高く、目的に沿って自分の経験等を踏まえながら論理的に記述することができている。ただし、小学校では「書くこと」において、いくつかの資料から必要な事柄を抜き取り、指定の文字数にまとめることに課題が見られる。また、小中学校ともに、「言葉の特徴や使い方に関する事項」（漢字の読み書き、文法、語句の使い方など）は課題である。（小学校においては令和4年度に引き続いて同様の課題である。）
  - ・算数・数学では、全国平均の正答率を基準に見ると、中学校では「数と式」「図形」「関数」「データの活用」全ての領域で習熟の高さが見られる。特に、小学校では「変化と関係」、中学校では「数と式」において正答率が高い。ただし、全国平均の正答率を基準に見ると、小学校においては「数と計算」「図形」「変化と関係」「データの活用」全ての領域が課題である。
  - ・英語では、全国平均の正答率を基準に見ると、特に「読むこと」「書くこと」において優れている。また、全国平均の無回答率を基準に見ると、多くの設問において無回答率は低く、知識・技能を活用して何かしら英語で答えようとしている。ただし、「聞くこと」「話すこと[やり取り]」においてはやや課題が見られる。
- （※「話すこと」調査については音声録音で行われ、音声認識され採点対象となった生徒のみのデータ）

#### <成果○と課題△の具体>

	小学校	中学校
国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>○いくつかの説明的な文章から、文章内の情報と情報との関係（原因と結果等）を捉える。</li> <li>○文章の中から中心となる言葉や文を見つけて、その文章の内容を要約する。</li> <li>○話し手の話している内容をもとに、聞き手の質問の意図を捉える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○文章を読んで理解したことなどを、自分のもっている知識や経験と結び付け、自分の考えを広めたり深めたりする。</li> <li>○聞き取ったことをもとに、目的に沿って自分の考えをまとめる。</li> <li>○文章の中心となる部分や付加的な部分について、叙述をもとに捉え、要旨</li> </ul>

	<p>△漢字を文中で正しく使って書く。 (いがい、きかん、くらべて)</p> <p>△図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫して文章を書ききる。</p>	<p>を把握する。</p> <p>△文脈に即して漢字を正しく書く。(おし量って)</p> <p>△古典の歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読む。</p>
算数・数学	<p>○基本的な四則演算を用いて、計算する問題</p> <p>○問題場面について、挿絵に具体的な長さなどの数値が表記されている問題</p> <p>△テープを用いて様々な四角形を描く問題で、それぞれの四角形の定義を基にして答える問題(辺の長さの表記はない)</p> <p>△4脚で7kgの椅子が48脚ある時の重さを答える問題</p> <p>※複数の数値が変化する問題に難しさがある。</p> <p>※図形の定義を用いて、なぜその形といえるのか、なぜその角度になるのかなど、理由を文章で答える問題に難しさが見られる。</p>	<p>○基本的な四則演算を用いて、計算する問題(方程式も含む)</p> <p>△例示されている計算の規則性を用いて、必要な結果にするための条件とその理由を答える問題</p> <p>※全国や県平均よりは大きく上回っているが、正答率は50%より下回っている。</p> <p>△42を素因数分解する問題</p> <p>△合同な2つの三角形を用いた2つの場面について、2つの辺が平行になる場合とならない場合とについてそれぞれ証明する問題</p> <p>※図形の定義を基に、辺の長さや角の性質を用いて文章で答える問題に難しさがある。</p>
英語 「話すこと」以外		<p>○「読むこと」において、「事実・情報を伝える」「考えや意図を伝える」という言語の働きを理解し、事実と考えを区別して読む。</p> <p>○「書く」ことにおいて、与えられた英語を適切な形に変えたり、不足している語を補ったりして、会話が成り立つように英文を完成する。</p> <p>△情報を正確に聞き取る。(調査では道案内や買物の場面における対話)</p> <p>△日常的な話題について、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を読み取る。(調査では友達からのメール文)</p>

英語「話すこと」	<p>○日付に関する基本的な表現を理解するとともに、その知識をやり取りの場面において活用する。(調査では動物園のゾウの誕生日を伝える)</p> <p>○日常的な話題に関して聞いたことについて、考えとその理由を述べ合う。(調査ではお土産としてふさわしいものとその理由を伝える)</p> <p>△未来表現 (be going to) や疑問詞の特徴を理解するとともに、その知識をやり取りの場面において活用する。(調査では次の予定を伝えたり、カンガルーが食べるものについて質問したりする)</p>
----------	---

## (2)児童生徒質問紙

### <小学校>

- ・令和元年度からの変化を見ると、「学校に行くのは楽しい」と感じるは年々高くなってきている。また、令和3年度からの変化を見ると、「自分と違う意見について考えるのは楽しい」「地域や社会をよりよくするために何かをしてみたいと思う」も年々高まってきている。一方で、「将来の夢や目標をもっている」「平日の家庭学習の時間が1時間以上」「休日の家庭学習の時間が2時間以上」「新聞を読んでいる」は年々低くなっている。
- ・令和4年度と比較すると、「自分には、よいところがあると思う」「自分と違う意見について考えるのは楽しい」「あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めている」「国語の勉強は好きだ」等において高まっている。一方で、「平日の学校の授業時間以外での一日あたりの勉強時間(長い児童)」、「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている」「算数の授業の内容はよく分かる」は低くなっている。

### <中学校>

- ・令和元年度からの変化を見ると、「毎日同じくらいの時間に起きている」「平日の読書時間が30分以上」は、年々高まってきている。一方で、令和3年度からの変化を見ると、「朝食を毎日食べている」「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」「平日の家庭学習の時間が1時間以上」「休日の家庭学習の時間が2時間以上」「新聞を読んでいる」は年々低くなっている。
- ・令和4年度と比較すると、「1,2年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を使用した頻度(多い生徒)」「学習した内容について、分かった点や、よく分からな

かった点を見直し、次の学習につなげることができている」「数学の授業の内容はよく分かる」「数学の授業で学習したことは、将来、社会に出た時に役に立つ」等の意識は高まっている。一方で、「自分にはよいところがあると思う」「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる」「休日の家庭での一日あたりの勉強時間（短い生徒）」「1，2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していた」等は低くなっている。

#### <その他>

- ・特に小学校では、「就寝・起床時刻」など家庭生活での生活に関わり、規則正しい生活をしている児童ほど正答率が高い。また、新聞を読んだり、読書が好きであったりする児童ほど正答率が高い。また、「自分にはよいところがあると思う」「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う」等、自己肯定感ももっている児童ほど正答率が高い。
- ・特に中学校では、「人の役に立つ人間になりたいと思う」等、社会に貢献したいと考えている生徒ほど正答率が高い。
- ・「家で自分で計画を立てて勉強している」児童生徒ほど正答率が高い。
- ・授業で「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりすることができている」「各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行ってきた」「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている」「授業で学んだことを、他の学習で生かしている」児童生徒ほど正答率が高い。
- ・「国語（算数・数学、英語）の勉強は大切だと思う」児童生徒ほど正答率が高い。

#### 4 学力向上に向けての羽島郡二町内の小中学校の取組

羽島郡内の小中学校では、学力の向上を目指して、次の二点について取り組んでいます。

- (1) 授業では、「羽島郡『授業マニフェスト4』」に取り組んでいます。また、前期末と後期末に、これらの取組状況について教師が自己評価をし、改善に役立てます。
  - ・授業はチャイムで始め、チャイムで終わります。
  - ・学習の見通しをもち、子ども同士で考えを深め合う場をつくります。
  - ・考えたことや分かったこと、疑問に思ったことなどについて振り返る場をつくります。
  - ・授業の最後に子どものよいところをほめます。
- (2) 各校の実態に応じて、毎年「指導改善プラン」を作成し、各校にて下記の内容について工夫して取り組んでいます。
  - ・「A校内研究」、「B補充」（基礎・基本の定着）、「C家庭学習」、「D個別最適な学び」、「E協働的な学び」、「F授業マニフェスト4」 「G 学力向上推進会議・学力向上委員会」

## 5 保護者の皆様へ

◇子どもは褒められて育ちます

子どもを褒めるときには、家庭での過ごし方の約束を作ることが大切になります。家庭学習の時間、家族の一員としての役割、スマホやパソコン（タブレット）の使い方などについて約束を決めて、必ずやりきらせて褒めましょう。「時間やルールを守る生活をするとういことがある」と、子どもたちが実感できるようにしたいです。そのために、やりきって褒められる生活サイクルを確立させましょう。

◇いつも成長の願いをもって見守ってください。

子どもに対して成長の願いをもって見守っていると、小さな成長や成果にも気が付くようになります。また、結果には表れなかったことでも、努力した過程を認めることができます。そうすることで、期待に応えようとする前向きな心や自己肯定感が育ちます。

子どもには無限の可能性が秘められています。どの子もよりよく生きたいという願いをもっています。その可能性や願いを最大限に引き出し、前を向いて、素直に歩む子どもになるよう育てていきましょう。